

勢いよく水が出るホースをしっかりと握る、第7分団の消防団員。火元に見立てた10メートル先の標的を狙っています。昨年10月18日に総合公園で行われた消防フェスティバル2014 in ひらつかで、市内三つの消防分団が小型ポンプを使って放水を披露しました。



地域防災のリーダー

消防団

目次	1～3面… 特集 固い絆で地域を守る…地域を守る消防団や、出初式に向けて練習する平塚古式消防保存会を紹介します。	平塚市の人口と世帯数 <平成26年12月1日現在()内は前月比>	◎発行 平塚市 ◎編集 秘書広報課 〒254-8686 神奈川県平塚市浅間町9番1号 ☎0463-23-1111 ㊚0463-23-9467 http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/
	4～7面…募集・お知らせ・健康と福祉・スポーツ「知って安心」「みんなの力」 8面…ヒラツカルチャー「博物館モノ語り」	👤 人口 257,003人…(-65) 🏠 世帯数 106,292世帯…(-29)	

今号は1月1日～6日にお配りしています。届かない場合はミッド☎0120-350311(月～金曜日、午前9時30分～午後5時)にご連絡ください。

固い絆で地域を守る

江戸時代の町火消が起源とされる活動があります。地域の安全を守る消防団と、はしご乗りや木やりの伝統を受け継ぐ平塚古式消防保存会。さまざまな変遷を経て、今なお続く二つの姿を紹介します。

消防救急課 ☎21-9729

地域に溶け込む

「ほんとだ！全然抜けない」「こんな結び方知らなかったよ」

吉沢小学校(上吉沢465)の多目的室に響く、にぎやかな子どもたちの声。小学生が消防団員からロープの結び方を教わっています。



小学生にロープの結び方を実演

意識を高めるイベント「わくわくサタデー」が吉沢小学校で開かれました。吉沢地区の消防団第16分団が、ロープの取り扱い方法などを教えるロープワークを行いました。

6年生3クラス83人が参加し、10グループに分かれて、もやい結びや本結びなどを、約30分間教わりました。いつも固結びやちようちよう結びをしている小学生は、慣れない結び方に挑戦。消防団員が手際良くロープを操る様子を見つめます。

「最初は難しかったけど、もう完璧」「帰ったらお母さんにも教えてあげなきゃ」と笑顔を見せます。



乾燥する時季の巡回は大切です

「子どもたちに消防団を知ってもらう機会になって、と



ても良かったです」とほほ笑む、第16分団の小澤幸輝さん(右写真)。

「今後も続けていきたい」と、わくわくサタデーの手応えを語ります。

チームワークが宝

消防署の職員は、消防業務を本業としています。一方、消防団員は本業を別に持ちながら、災害などが発生した場合に、地域を守るために消防の仕事を行います。小澤さんも、

広がる活動

「火を消すだけが仕事ではありません」

市消防団長の二宮敏郎さんは、消防団の役割の変化を指摘します。

平成23年3月11日の東日本大震災以降、消防団の災害対応が特に注目されるようになりました。消火技術だけではなく、自動体外式除細動器(AED)を使った救命方法も覚えていかなければなりません。今年から、全ての消防団員が、救命講習を受講していきます。

二宮さんは農家で、寺田縄でイチゴや米などを作っています。28歳で金田地区の第15

普段は南金目にある石材店で働いています。地域の方から声を掛けられて、平成16年に入団しました。

第16分団では、毎月第1・第3土曜日の夜に定期的に訓練や巡回をしています。ほかにも、市民体育レクリエーション地区大会などの地域行事や、1月の出初式などにも参加しています。

災害出動だけではなく、地域行事にも参加することで、消防団員を知ってもらう、消防団員の顔も覚えてもらえます。実際に災害が起きた時に、地域と連携しスムーズな対応ができます。

消防団員になりませんか？

消防団員には特別地方公務員として一定の報酬が支給されます。また、災害や訓練などで出勤した時は、別に手当が支給されます。活動中のけがなどには、公務災害補償の制度もあります。市内在住・在勤の18~54歳の方(選考)。

☎電話で、消防救急課 ☎21-9729へ。



求む！消防団員



「消防団員は自分の安全を確保し活動してほしい」と語る二宮団長

いつも安心・安全を

昼間の災害でもすぐに駆け付けられるように、住まいの

間4~5回の出動要請があります。昨年10月の台風18号では、吉沢地区に土砂崩れがありました。「場所を把握するため、車で巡回しました。道路が川のようになっていて、運転するだけでも大変でした」と振り返ります。

「災害現場で気を付けていることは、まず第一に自分の身の安全を確保することです。1人の力は小さなものですが、自分が動けなくなったら、分団に大きな迷惑を掛けてしまいます」と言います。

「これまで消防団の活動を続けられるとは思わなかった」と語る小澤さん。多い時期には毎週のように消防団の活動があります。「家族の理解と協力なしには続けられなかったですね」と家族への感謝も忘れません。

さまざまな職種の消防団員に支えられています。また、地元企業とも連携しています。従業員の入団に理解を示し、消防団活動への協力を得た事業所に表示証を交付する、消防団協力事業所表示制度があります。市内では湘南農業協同組合・日産車体・田中貴金属工業・福田無線商会の4事業所が登録されています。「農協の職員は地元の、

近くで働いている人が消防団員には適任です。しかし最近では、自宅から離れて働くサラリーマンの消防団員の割合が増えています。その割合は、平成25年には全国平均で71.9%となり、昼間の消防力の低下が心配されています。平塚市では平成26年4月1日現在で43・6%で、全国平均より低くなっています。自営業者やサラリーマンなど、さま

名称	住所
第1分団(富士見分団)	平塚 4-2-1
第2分団(浜岳分団)	八重咲町 19-29
第3分団(駅前分団)	宮の前 1-14
第4分団(港分団)	幸町 8-19
第5分団(松原分団)	八千代町 19-17
第6分団(西海岸分団)	花水台 33-32
第7分団(湘南平分団)	高根 183-2
第8分団(かまくら橋分団)	根坂間 821-12
第9分団(八幡分団)	西八幡 3-1-50
第10分団(大野分団)	東真土 2-17-2
第11分団(御殿分団)	御殿 2-8-21
第12分団(神田分団)	田村 6-22-16
第13分団(城島分団)	小鍋島 624-1
第14分団(豊田分団)	豊田本郷 1658-2
第15分団(金田分団)	入野 105
第16分団(吉沢分団)	上吉沢 395
第17分団(土屋分団)	土屋 991-3
第18分団(岡崎分団)	岡崎 3535-1
第19分団(金目分団)	南金目 1075-3

市内には19の分団があります。災害に迅速に対応できるよう、バランス良く配置しています。

暮らしの近くに消防分団

「消火技術の習得は簡単ではありません。『自分が地域を守る』という強い気持ちを持って活動してほしい」と二宮さんは語ります。

消防団は、消防団員のボランティア精神に支えられています。本業を持ちながら活動をしているので、けがは絶対に避けています。

自分を守り地域を守る

昭和43年度の消防団員数を100としたときの経年の変化を見ると、平成25年度では全国が69.1に対し、平塚市は98.4です。全国的には右肩下がりでありますが、平塚市はほぼ同じ消防団員数を維持しています。農商工とパランスのとれた産業構成で一定の消防団員が確保できるほか、地元企業の協力などにより、市内の安全が守られています。

また、「分団長はできるだけに目を配ってほしい」と付け加えます。消防団員の入れ替わりが多くなると、組織は弱くなってしまいます。分団長が長く続ければ、分団の統率力も高まり、災害時に力を発揮することができます。「組織を強くして、地域を守ってきた消防団を何十年、何百年先にも残していきたい」と力を込めます。

出身者が多くいます。雇用形態はサラリーマンですが、地域に密着していて、とても心強い」と二宮さんは語ります。

なければいけません。火災現場では、何が落ちてくるかわからないので、底の厚い編み上げ靴が必要です。また、防火衣のホックを上まできちんと留めない、何か引つ掛かって転倒する恐れもあります。

町火消の心意気をご覧あれ

はしご乗りは出初式の花形。はしご乗りを見ないとお正月じゃないと言われ、正月の風物詩として縁起物のはしご乗りを、多くの人に楽しんでもらいたい」と話すのは、平塚古式消防保存会の船津孝夫会長(下写真)。



江戸時代の消火活動は、延焼を防ぐために家屋を壊すことが多かった。町火消を担っていたのは、家の知識や専用の道具を持つとび職人。仕事前の準備運動や訓練だったはしご乗りは、今もとび職人に受け継がれている。

船津会長は「火消し稼業の伝統を受け継ぎ、火の中に飛び込むような威勢の良さを見せたいね」と出初式への意気込みを語る。

昭和38年1月に結成された保存会。結成当初は70〜80人いたと言われるが、現在では20歳代から60歳代までの12人が活動している。「私のように一代限りの人は、保存会に入りたくても親方の許可が無ければ入れてもらえないんだよ」

船津会長が入会した昭和40年代半ばは、とび職の家業を代々継いできた人が多く、保存会への入会は狭き門だった。「今の若い人に、苦労して入った話をして、全然信用してもらえないよ」と笑顔を見せる。

毎年11月下旬から正月の出初式に向け、本業であるとび職の仕事を終えた夜間、会員が白い息を吐きながら黙々と練習を続ける。バ



消防署大野出張所にはしごを立て、練習に励む

粋でいなせ

はしご乗りの見どころは、次々と繰り出される技だ。鯨、背亀、肝つぶし。大技が立て続けに成功すると、大きな拍手が送られる。「はしごの上で練り広げられる難易度の高い技に注目してほしい」と話す船津会長。

「命綱や安全帯を付けずに、何でもそんなことをするのだからと思う人もいるかもね。でも、江戸時代の心意気を今に伝える伝統行事だから、『粋でいなせ』なはしご乗りを、ぜひ見に来てよ」



鯨



二本背亀



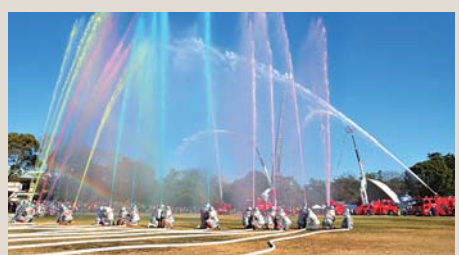
肝つぶし

消防出初式

伝統のはしご乗り・木やり、消防車両のパレードやはしご車が活躍する消防署部隊による消防演技など、見応えのある演技がめじろ押しです。消防団の小型動力ポンプ10台とはしご車などによる豪華な一斉放水(下写真)をするクライマックスには目が離せません。

1月10日(土)午前10時~11時45分。総合公園平塚のはらっぱ。荒天中止。

☎ 消防総務課 ☎21-9725



約7メートルの高さで、技が披露される